

2025年10月19日現在
一般財団法人MOA健康科学センター

「研究報告集」執筆要項

一般財団法人MOA健康科学センター研究報告集（以下、「研究報告集」という。）に掲載する論文の執筆要項を、以下に示す。

掲載する論文は、「定款」に基づき、医学および健康に関連する分野において学術的に価値があり、または、そこに関わる研究者・技術者ならびに、一般市民が関心を持つテーマについての哲学的、実用的または学術的情報を含むものであり、未発表の原著（Original Article）、総説（Review Article）、研究報告（Research Report）、実践・事例報告（Case Report）、資料（Research Note）、短報（Short Report）、レター（Letter to Editor）、ならびに、転載（Reprint）などとする。

原稿は、E-mailまたは郵送で編集委員会へ提出するものとする。

研究助成報告（Research Grant Report）、委託研究報告（Contract Research Report）を含め、原稿は編集委員会において審査する。ただし、執筆者は、重複投稿をしてはいけない。投稿原稿が編集委員会に届いた日を受付日とし、編集委員会によって採択された受理日とともに論文の脚注に明記する。掲載にあたり、編集委員会は内容および表現について修正を求めることがあり、必要に応じて字句の訂正を行うことがある。

論文で使用する言語は、原則として日本語と英語の2か国語に限るものとする。日本語の論文には英語抄録を、英語の論文には日本語抄録を、それぞれ末尾に必ず記載する。ただし、英語の論文には日本語の論文をつけることができる。

以下の詳細では、論文の構成、原稿の作成、論文の提出、「研究報告集」への掲載、の各見出しから成る。

1. 論文の構成

論文は、次の順序で構成する。ただし、短報については(4)(5)(8)を省略可能、レターについては、それらを不要とする。

- (1) 論文表題（Title） (2) 執筆者（Name(s) of author(s)）
- (3) 執筆者が所属する研究機関および所在地（Affiliation(s) and Mailing address(es)）、代表者と連絡先（Corresponding author）
- (4) 抄録（Abstract） (5) キーワード（Keywords）
- (6) 本文（Text）ならびに、図（Figures）、表（Tables）、写真（Photographs）等
- (7) [参考文献]（References）
- (8) 従たる言語による抄録

1-1 タイトルページ

1-1-1 日本語による書式等

論文表題（研究テーマ）、執筆者（日本語でない氏名はカタカナとし、苗字等との区切りに「・」をつけて、その国で呼ばれる氏名通りの順に記載する）、執筆者が所属する研究機関および所在地（執筆者の記載順にあげ、所属機関の番号を、執筆者の右肩に上付き半角文字入力でつける）、代表者と連絡先（電話番号、ファックス番号、E-mailアドレス）、800字以内の抄録、5語程度のキーワードとする。

1-1-2 英語による書式等

論文表題（研究テーマ）、執筆者（日本語の氏名はローマ字とし、小文字で表記する名前（First name）、大文字で表記する苗字（LAST NAME）の順に記載する）、執筆者が所属する研究機関および所在地（執筆者の記載順にあげ、所属機関の番号を、執筆者の右肩に上付き半角文字入力でつける）、Corresponding author と連絡先（電話番号、ファックス番号、E-mailアドレス）、400語以内のAbstract、5語程度のKeywords とする。

1-2 本文ならびに、図、表、写真等

本文は、原則として、緒言（Introduction）、方法（Methods）、結果（Results）、考察（Discussion）の順とする。ただし、結果と考察を一括して「結果および考察（Results and Discussion）」としてもよい。

図、表、写真等については、「図1（Figure 1）」「表1（Table 1）」「写真1（Photograph 1）」等を用いる。本文中に、これらの挿入箇所を指定する。図、表、写真等では、タイトルと説明文（caption）を含め単独で、その内容がわかるように努める。

本文とは別に「付録（Appendix）」として、調査票などを添付することができる。

1-2-1 本文ページの脚注

語句に注釈を加える場合は、本文の各ページで脚注を使用することができる。脚注では注釈順にあげ、†（ダガー）と注釈番号を、本文中の語句の右肩に（句読点より前へ）上付き半角文字入力でつける。

1-2-2 研究倫理に関する記述

「方法」の部分に、研究倫理に関して実施した配慮を記述する。倫理審査委員会の承認を得ている場合は、審査を受けた機関名、委員会の名称、および承認番号を本文中に記述する。倫理審査委員会の審査を受けていない場合は、その理由と実施した倫理的配慮の内容を記述する。

1-3 参考文献

参考文献は、本文に用いられたもののみを引用順にあげ、文献番号と半括弧を、本文中の該当箇所の右肩に（句読点より前へ）上付き半角文字入力でつける。

例

渥美¹⁾によると、・・・検討されている^{2,3)}。美術館⁷⁻¹⁰⁾、庭園^{4,13,15)}では、

参考文献における英数字は、日本語による作成を含め、すべて半角文字入力とする。

まず、執筆者の氏名については、使用される言語にかかわらず、苗字を先に記載する。言語がアルファベット圏であっても、日本語と同様、苗字が先の国もあるので注意する。日本語の場合は氏名とする。英語の場合は、苗字以外を頭文字（Initial）とし、名前以外の頭文字を省略することができる。

執筆者は3名まで記載し、それを超える場合は、日本語では「ほか」、英語では「, et al.」を用いる。発行年は西暦とする。DOI（Digital Object Identifier）が付与されている場合には明記する。

1-3-1 雑誌から論文の引用

学術雑誌 (Academic journals) については、文献番号に続き、次の順に記載する。

執筆者. 論文表題: 副題. 雑誌. 巻(号), 最初頁-最終頁. 発行年

執筆者. 論文表題: 副題. 雑誌. 巻(号), 最初頁-最終頁. 発行年. DOI.

欧文誌名は Index Medicus に準拠した略名を用いる。邦文誌名はその雑誌が表記している略名を用いる。頁は通巻頁で記す。DOIの記載がある場合、発行年の後に「.」を付け、「doi:」に続けて記載する。

例

- 1) Suzuki K, Uchida S, Kimura T, et al. A large cross-sectional, descriptive study of selfreports after biofield therapy in Japan: Demography, symptomatology, and circumstances of treatment administration. *Altern Ther Health Med*. 18(4), 38-50. 2012
- 2) 鈴木清志, 片村宏. エネルギー療法の基礎と臨床. 日本統合医療学会誌. 8(1), 21-28. 2015
- 3) Hatayama M, Suzuki K, Ishida A, et al. Long-term efficacy of Okada Purifying Therapy (bio-energy healing) on menopausal symptoms. *Res Rep MOA Health Sci*. 12, 5-19. 2009
- 4) 木村友昭, 鈴木清志, 森岡尚夫ほか. 大規模健康調査のための QOL尺度開発とその妥当性の検証: 10項目版MOAQOL調査票 (MQL-10). *MOA健科報*. 13, 73-84. 2009
- 5) Wong J, Ghiasuddin A, Kimata C, et al. The impact of healing touch on pediatric oncology patients. *Integrative Cancer Therapies*. 12(1), 25-30. 2012. doi:10.1177/1534735412446864.
- 6) 的場主真, ペーター・ホイザー. 『岡田式健康法』とドイツにおける『人智学医学』との比較研究: 理論的背景, 現状と問題点. *MOA健科報*. 18, 3-28. 2014

1-3-2 著書から引用

単行本 (Books) については、文献番号に続き、次の順に記載する。

執筆者. 「項目」. 著書表題: 副題. 巻, 版. 発行社. 発行地. 最初頁-最終頁. 発行年

ただし、「項目」の記載は、詳細を入れるときにのみ使用する。

例

- 7) Koenig HG. *Medicine, religion, and health*. Templeton Foundation Press. PA, USA. 2008
- 8) (編者) PHP研究所取材班. 「第4章 日本の医療制度への提言」. 福島孝徳 脳外科医 奇跡の指先. PHP研究所. 東京. 127-163. 2005

1-3-3 著書（訳本）から引用

単行本が訳本である場合、さらに括弧書きで「原著：」に続けて次の順に記載する。

（執筆者．著書：副題．巻．版．発行社．発行地．発行年）

日本語への訳本である場合、執筆者の氏名については、タイトルページの「1-1-1 日本語による書式等」と同様に記載する。苗字と名前以外を頭文字にしたり、省略したりすることができる。

例

- 9) ロイド・エバンス．（訳者）日向康吉．100億人への食糧．学会出版センター．東京．20-48．2006（原著：Evans LT. Feeding the ten billion: Plants and population growth. United Kingdom at the University Press. Cambridge. 1998）

1-3-4 著書（編著）から引用

参考文献の引用が編著からの場合、執筆者と表題に続き、編著について記載する。

例

- 10) Mori K, Ikemi Y. Stress reduction effects of acupuncture as an oriental approach. In Ikemi Y (ed). Integration of Eastern and Western psychosomatic medicine. Kyushu University Press. Fukuoka. 139-155. 1996
- 11) 熊澤喜久雄．これからの有機農業：土と栄養について．（編者）日本有機農業研究会．基礎講座 有機農業の技術．農山漁村文化協会．東京．11-49．2007

1-3-5 Webページから引用

Webページについては、文献番号に続き、次の順に記載する。入手した年月日は、括弧書きで「accessed」に続けて記載する。

執筆者．「表題」．Webサイト．URL，（入手した西暦年月日）．

ただし、「表題」の記載は、詳細を入れるときにのみ使用する。

例

- 12) 健康・体力づくり事業財団．健康日本21．
<http://www.kenkounippon21.gr.jp/>, (accessed 2013-09-26).
- 13) MOAインターナショナル．「美術文化法」．健康法natural．
<http://www.moa-natural.jp/culture/index.html>, (accessed 2017-11-29).
- 14) Alliance for Healthy Cities．“Healthy cities.” About the alliance．
http://www.alliance-healthycities.com/htmls/about/index_about.html,
(accessed 2013-09-26).

1-4 従たる言語による抄録の記載

従たる言語による抄録は、次の順序で記載する。

- (1) 論文表題 (Title) (2) 執筆者 (Name(s) of author(s))
- (3) 執筆者が所属する研究機関および所在地 (Affiliation(s) and Mailing address(es))、
代表者と連絡先 (Corresponding author)
- (4) 抄録 (Abstract) (5) キーワード (Keywords)

2. 原稿の作成

2-1 原稿ファイルの形式

原稿は、原則として、Microsoft Wordで作成する。A4の大きさの用紙を縦に使用し、字間および行間をあけて横書きとする。ただし、図、表、写真等についてはこの限りでない。

書体としては、文字の大きさを12ポイントとする。日本語による作成では、1桁の自然数を含めて全角文字入力でMS明朝とする。英語による作成（半角英数字）では、半角文字入力でTimes系の書体またはCenturyとする。ただし、見出しのみ、ゴシック系の書体とする。

書式としては、上下左右の余白を20mm以上とし、1ページあたりの行数を30行前後とする。日本語による作成では、1行あたりの文字数を40字以内とする。

原稿のうち、本文中に挿入する図、表については、その大きさがA4用紙の半分以上となるようにし、原則として白黒で鮮明に作成し、別紙に印刷する。図、表の作成はゴシック系の書体とする。写真等については現物とする。

図、表、写真等の印刷物は、そのタイトルと説明文 (caption) を除き、原則としてそのまま印刷原稿となるので、解像度、文字の大きさや線の太さ、レイアウトなどに十分に注意して作成することが望まれる。

2-1-1 医学論文、自然科学論文等（理系論文の場合）

原稿の長さは、400字詰め原稿用紙で50枚以内（日本語では二万字以内、英語では8,000語以内）とする。

ただし、図、表、写真等については、1つにつき2枚（日本語では800字、英語では320語）と数えるものとし、それらは合計して8つ以内とする。

「研究報告集」に掲載する論文のページ数は、上述の原稿の長さにかかわらず、従たる言語による抄録の1ページ分を除き、11ページ以内に収めなくてはならない。

2-1-2 医学哲学論文、科学哲学論文等（文系論文の場合）

原稿の長さは、原則として400字詰め原稿用紙で100枚以内（日本語では四万字以内、英語では16,000語以内）とする。ただし、図、表、写真等については、1つにつき2枚（日本語では800字、英語では320語）と数えるものとし、それらは合計して16個以内とする。

「研究報告集」に掲載する論文のページ数は、上述の原稿の長さにかかわらず、従たる言語による抄録の1ページ分を除き、21ページ以内に収めなくてはならない。

2-1-3 短報およびレターについて

上記にかかわらず、短報は日本語で五千字以内（英語では2,000語以内）、レターは日本語で二千字以内（英語では800語以内）を原則とする。

2-2 句読点の表記

日本語による作成にあたり、句読点は全角文字入力で「。」「、」を使用する。ただし、参考文献における句読点は、全角文字入力でピリオド「.」、コンマ「,」等を使用する。

英語による作成（半角英数字）にあたり、句読点は半角文字入力で「.」「,」等を使用する。

2-3 文字の表記

日本語では常用漢字、新かなづかいを用いる。英語の表記については、英式・米式のいずれでもよい。

2-4 数字と単位

数字はアラビア数字（算用数字）を用いる。

単位は、原則として、国際単位系（SI）を用いる。ただし、単位記号などの文字を、部分的にある特定の書体に変換すると、原稿のデータファイルをテキストなどに変換した後に文字化けを起こすことがあるので注意する。

3. 論文の提出

掲載が決定した論文については、そのデータファイルを編集委員会へ提出する。すべてのデータファイルを、E-mailに添付するか、CD-Rなどのディスクに複写するものとする。ただし、原稿の印刷物ならびに、写真等の現物も送付することを原則とする。

3-1 原稿のデータファイル

原稿のうち、本文の文字部分のデータファイルは、原則としてMicrosoft Wordで保存したものを提出する。原稿作成に利用したソフトウェアがそれでない場合、元のデータファイルも提出する。その際、ソフトウェアと、そのバージョンならびに、OSを、ディスクのラベル部分に、あるいは、ディスクの入れ物内に明記する。

さらに、本文中に挿入する図、表、写真等のタイトルと説明文（caption）のデータファイルも、本文の文字部分のそれに準じる。

図、表は、Microsoft Excel、または、Adobe Illustratorで作成した場合、それらのデータファイルを提出する。ソフトウェアがそれらでない場合、そのデータファイルを提出する。

そして、原稿をMicrosoft Wordによるデータファイルのみで提出する場合であっても、本文中に、すでに挿入した図、表を作成するために使用した元のソフトウェアによるデータファイルも、同時に提出するものとする。

3-2 写真のデータファイル

写真をデジタルカメラ等で撮影した場合、元の画像ファイルだけでなく、汎用の画像ファイルに変換して提出する。できればepsまたはtif形式の高解像度写真が望ましい。

4. 「研究報告集」への掲載

4-1 「研究報告集」の形式

出版物は、A4用紙を縦に使用する。

書式として、1 ページを2列とする。1列あたりの文字数を24字、1 ページあたりの行数を40行とする。
ただし、図、表、写真等のレイアウトについてはこの限りでない。

4-2 論文の掲載順

論文は、原則として原著、総説、研究報告、実践・事例報告、資料、短報、レター、転載、の順序で掲載する。